

I 第2週の発生動向 (2012/1/9~2012/1/15)

1. インフルエンザについては、患者報告数が増加しています。迅速診断キットによる型別で、A型 146人、B型 2人が報告されています。
 詳細については、**V県内インフルエンザ情報**をご覧ください。
2. 流行性耳下腺炎については、上十三保健所管内において、第48週から**警報**が継続しています。

II 第2週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

青森県内の定点(医療機関)数については青森県感染症発生動向調査TOPページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 小児科 (85) インフルエンザ	15	1.1	42	2.8	57	4.1	22	3.1	15	1.7			151	2.3	35			15	1.3
(74) RSウイルス感染症	4	0.4	2	0.2	5	0.6	5	1.0	3	0.5			19	0.5	-6			4	0.5
(75) 咽頭結膜熱			2	0.2					2	0.3			4	0.1	-4				
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	1.4	8	0.9	5	0.6			4	0.7	3	0.8	33	0.8	2			13	1.6
(77) 感染性胃腸炎	46	5.1	22	2.4	22	2.4	4	0.8	21	3.5	27	6.8	142	3.4	0	9	9.0	37	4.6
(78) 水痘	19	2.1	18	2.0	9	1.0	7	1.4	3	0.5	5	1.3	61	1.5	-22	1	1.0	18	2.3
(79) 手足口病															-1				
(80) 伝染性紅斑	1	0.1	1	0.1	1	0.1			1	0.2	1	0.3	5	0.1	5			1	0.1
(81) 突発性発しん	1	0.1	3	0.3	2	0.2	2	0.4	5	0.8	5	1.3	18	0.4	8			1	0.1
(82) 百日咳									1	0.2			1	0.0	1				
(83) ヘルパンギーナ	2	0.2											2	0.0	2	2	2.0		
(84) 流行性耳下腺炎	7	0.8	4	0.4	23	2.6			23	3.8	1	0.3	58	1.4	2	2	2.0	5	0.6
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	4	2.0	1	0.3	1	0.5	3	3.0					9	0.8	3			4	2.0
(92) クラミジア肺炎															0				
基幹 (93) 細菌性髄膜炎															0				
(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.0	11	11.0							1	1.0	13	2.2			
(96) 無菌性髄膜炎															0				

は警報、は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注：届出状況は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前1人、上十三1人、むつ2人(24年計:7人)
- (55) レジオネラ症(四類全数把握疾患)：八戸1人(24年計:1人)

IV 病原体検出情報 ※ ()内は、検査材料及び検体採取日、患者数です。

- ・下気道炎患者6名(鼻汁、11/1~11/18)・・・ライノウイルス(HRV)：弘前(3)、ヒトメタニューモウイルス(HMPV)：弘前(1)、HRVおよびマイコプラズマ：弘前(1)、HMPVおよびマイコプラズマ：弘前(1)
- ・上気道炎患者3名(鼻汁、11/1~11/14)・・・HRV：弘前(2)、HRVおよびHMPV：弘前(1)
- ・感染性胃腸炎患者7名(直腸ぬぐい液、腸内容物、11/2~11/28)・・・ポリオウイルス2型(ワクチン株)：弘前(1)、コクサッキーウイルスB1型(CB1)：弘前(1)、ノロウイルスGII型(NVGII)：弘前(4)、CB1およびNVGII：弘前(1)
- ・熱性けいれん患者1名(鼻汁、11/1)・・・HRV：弘前(1)

感染症の窓

ノロウイルス感染症

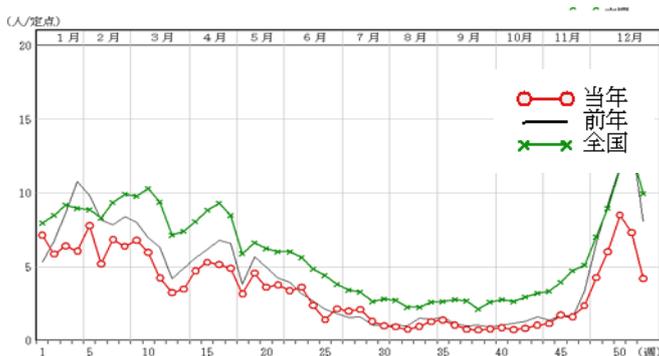


図 感染性胃腸炎 2011年の定点当たり患者数の推移

ノロウイルスは、冬期の感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスの一つです。集団感染を起こすこともあります。感染経路は、ほとんどが経口感染です。

感染予防対策は、食事の前やトイレの後に必ず手洗いをを行うことです。また患者が発生した場合は、嘔吐物や排泄物の適切な処理が必要です。ノロウイルスにはアルコール消毒は無効なので、次亜塩素酸ナトリウム、または煮沸消毒(85℃1分以上または80℃10分以上)で消毒します。また処理時には、マスク、手袋、エプロンの着用が必要です。(厚生労働省HP「ノロウイルス感染症対策」)

2011年の感染性胃腸炎の県内報告数は、冬期に多くなっています(図)。

V 県内インフルエンザ情報

警報レベル開始基準値：30人/定点、警報終息基準値：10人/定点、注意報基準値：10人/定点

(※ 警報注意報基準値は保健所ごとの定点あたり報告数が基準となっています。)

保健所管内別届出人数

週	49	50	51	52	1	2
保健所名						
東地方						
弘前	9	22	30	22	24	42
八戸	1	4	8	30	36	57
五所川原		1	5	3	16	22
上十三		1	28	32	30	15
むつ				1	1	
青森市		2		2	9	15

A型（迅速診断キットによる型別です）

週	49	50	51	52	1	2
保健所名						
東地方						
弘前	9	21	30	22	24	42
八戸	1	4	8	30	30	53
五所川原				1	14	21
上十三		1	26	31	27	15
むつ				1	1	
青森市		2		2	9	15

B型（迅速診断キットによる型別です）

週	49	50	51	52	1	2
保健所名						
東地方						
弘前		1				
八戸					1	1
五所川原		1	4	2	2	1
上十三					1	
むつ						
青森市						

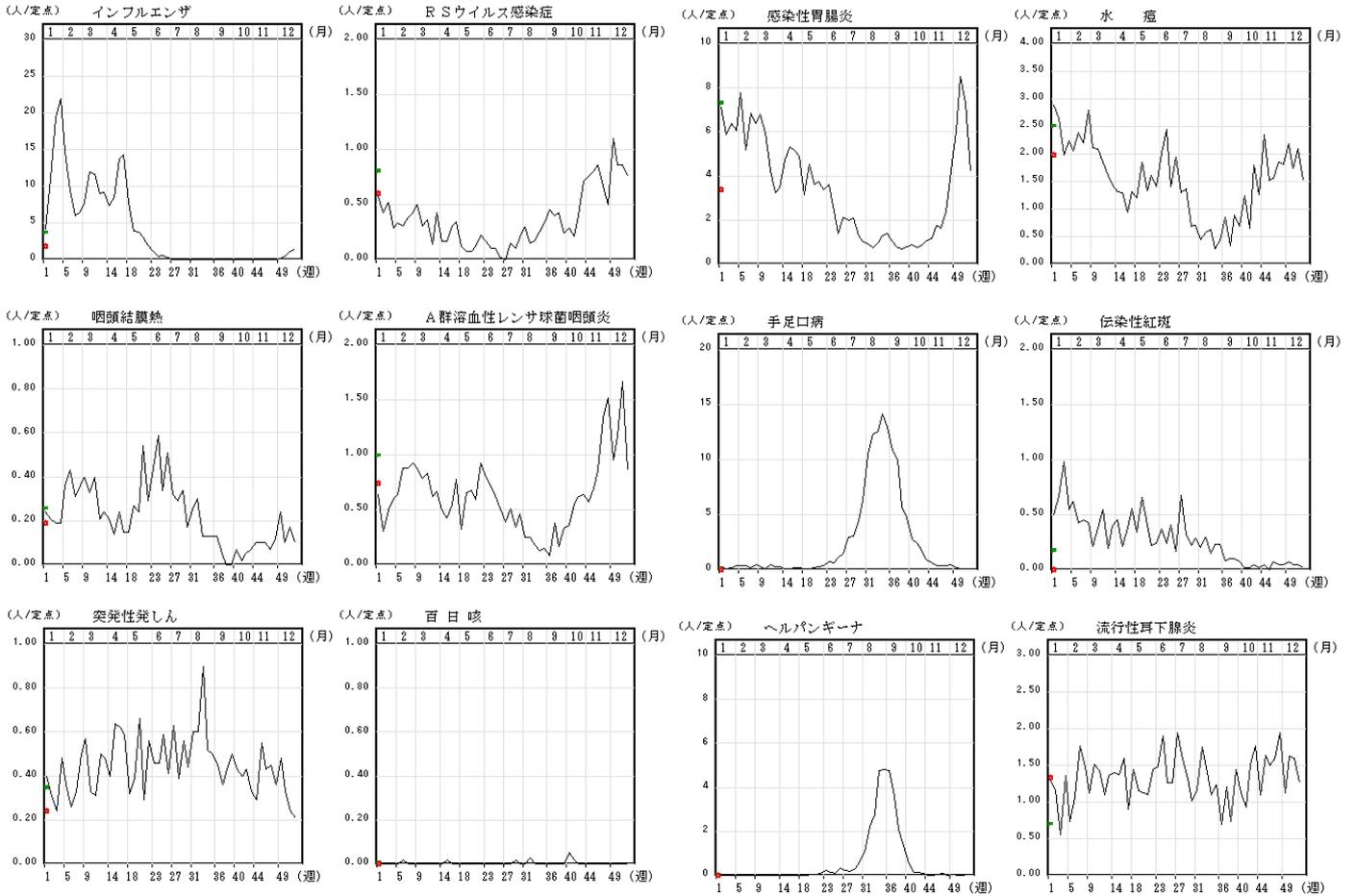
年齢区分別

週	49	50	51	52	1	2
～5ヶ月				1		
～11ヶ月				1	3	2
1歳	1		1	1	6	14
2歳			2	3	2	12
3歳			6	2	6	15
4歳		2	4	9	5	9
5歳		3	3	4	3	10
6歳		1	1	3	6	4
7歳	1	3	3	5	2	2
8歳		2	7	8	2	4
9歳	1	3	1	2	2	1
10～14歳	5	5	20	18	8	16
15～19歳		2	6	4	4	2
20～29歳		1	3	5	15	17
30～39歳		5	3	12	13	12
40～49歳	2	2	7	3	21	14
50～59歳			2	3	10	8
60～69歳		1		3	4	5
70～79歳			1		1	3
80歳以上			1	3	3	1

グラフの説明 ○—○は2012年青森県、——は2011年青森県、○—○は2012年全国

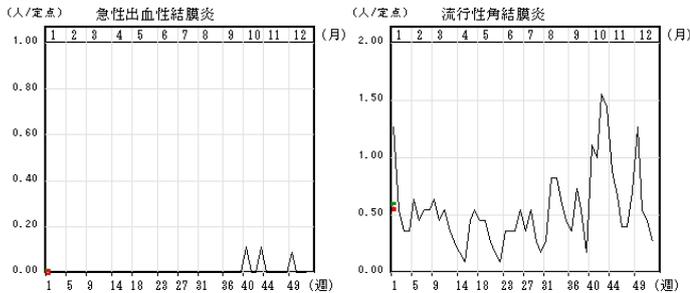
IX インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移

2012年第1週



X 眼科定点把握疾患週別推移

2012年第1週



XI 基幹定点把握疾患週別推移

2012年第1週

